

ここんくらぶ Cocon club

巻頭特集

100mハードル女子で全国連覇!
愛知教育大学 陸上競技部
**限界を超えて、
勝利へ駆け抜ける!**

フリモARを起動して、
スマホを表紙にかざそう!
練習する様子が動画で流れる!

特別企画

- ◎魅力がいっぱい! 愛知教育大学周辺 街歩き特集
- ◎Cocon clubスタッフが全力レポート! SHOP NAVI
- ◎さあ!今からはじめよう! 夏期講習&習いこと
- ◎ケーブルテレビ番組表 KATCHチャンネルガイド

地元の求人情報が満載! JIMO JOB ジモジョブ

今すぐダウンロード!!

スマートフォンのApp Store®、
またはGoogle Playで「フリモAR」と検索!

表紙がもっと
楽しくなる!!

フリモAR





ストイックで、負けん気が強いという短距離女子。400mの副主将・松本扶弥選手がけん引する

陸上とは自身の限界に挑戦する競技。学生たちは、何事にも限界を超えてようと挑戦していくってほしい。



笑顔を見せる陸上競技部。練習では互いに指摘し合い緊張した空気が流れる場面もあるが、日常生活では学年に関係なく交流して絆を育んでいる

記録が伸びると種目を転向した。「私は身長155・2センチで小柄だから、ハーダルは不利なんです。でも心機一転で挑戦したら楽しくて。するとタイムが一気に伸びたんですね」と笑顔を見せる。

次第に頭角を現し、高校3年生にはインターハイで入賞。愛知教育大学への進学後、1年生でU20日本陸上競技選手権大会の優勝に輝いた。「ライバルである中央大学のヘンプヒル選手に勝てたことが転機となりました。自分に自信がつき、その時から勝利が当然になった。私にとって忘れられない大会です」と当時話を

す。その後、大学3年生で副主将に就任。部をけん引する存在となつていった。

今年9月にもインカレが開幕する。小林選手にとって3連覇をかけた大会だが、後輩の記録にも注目しているという。「後輩たちには私を越えてほしい。まとまりがあつて、連携がとれた良い年代だと思います」と、下級生を見つめながらほほ笑んだ。

人間としても大きく成長 可能性を信じて走る

**人間としても大きく成長
可能性を信じて走る**

自のアイデアや選手の意見を参考にして練習メニューを考案。短距離は用意された練習メニューから選手が取捨選択し、中長距離では全員で1万2000mをひたすら走る時もある。

大会が近づくにつれ、部の士気は高まる。現在、主将を務める3年生の近藤佑樹選手は「先輩は実力ある人ばかりなので、引退後は主戦力が抜けてしまいます。でも、絶対に弱いチームにはなりたくない。陸上は個人競技ですが、大切なのはチームワーク。自分たちで先輩の穴を埋め、さらに強いチームとなりたい」と言

葉に力を込める。

卒業後は競技を離れる部員もいれば、指導者や実業団の道に進む選手もいる。顧問の鈴木英樹教授は「まだ全員が発展途上。あらゆる進路を選択する中で、自分の可能性を信じてほしい。陸上とは自身の限界に挑戦する競技。学生たちには、何事にも限界を超えると挑戦していくてほしいんです」と願う。

記録に涙をのむ時があれば、乗り越えて自信を手に入れることもある。自分の限界と向き合いながら、あきらめるものかと闘志を燃やし、選手たちはスタートラインに立つ。

[卷頭特集]

100mハードル女子で全国連覇! 愛知教育大学 陸上競技部

限界を超えて、 勝利へ駆け抜けろ!

昨年9月、大学陸上競技部の頂点を決める
日本学生陸上競技対校選手権大会が開催。
100mハードル女子の種目において
愛知教育大学 陸上競技部の小林紗矢香選手が
全国連覇を成し遂げた。
3連覇をかけた今大会まで、残り2カ月程度。
1秒でもタイムを縮めるべく、選手たちは限界に挑んでいる。

地元大学の強豪・陸上競技部 全国連覇の選手が誕生

といつたフィールド競技。毎年5月の
東海学生陸上競技対校選手権大会

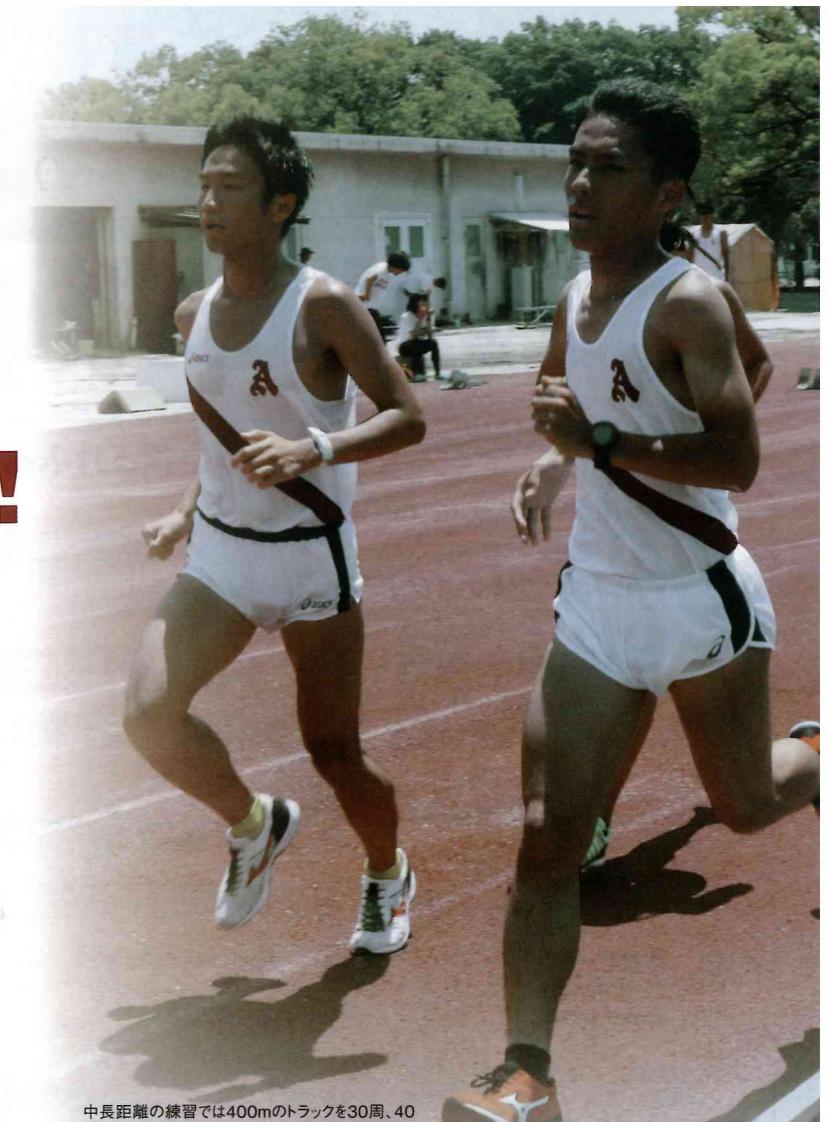
自身と向き合い果敢に挑戦
好敵手と競った転機の大会

身体構造の知識も必要だ。「それぞれの種目で選手の特徴がありますが、共通するのは闘争心。「誰にも負けたくない」という熱意が重要です」と小林選手は力を込める。

**自身と向き合い果敢に挑戦
好敵手と競った転機の大会**

昨年、小林選手が連覇を遂げた記録は13秒37。一昨年を上回るタイムであつたが、準優勝・日本体育大学の選手とは僅差の0・02秒差だった。

もともと100mの選手だった小林選手は、高校1年生の時にタイムが伸び悩み、100mハーダルに挑戦。当初は練習を楽しむ程度であったが、



中長距離の練習では400mのトラックを30周、40周する日もある。スタートから3割走った時点と、7割走った時点がもともと苦しいといい。また、競技中に周囲の声援を受けると苦しい時でも力が湧いてくるようだ

